

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱電機株式会社 福山製作所

(2) 事業所の所在地

広島県福山市緑町1番8号

(3) 業種

2914 配電盤・電力制御装置製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 25(2013) 年度を基準年度とし、
令和 3(2021) 年度から令和12(2030) 年度までの 9 年間とする。

3 計画の基本的な方向

三菱電機グループの長期環境経営ビジョンである「環境ビジョン2050」は、三菱電機グループが環境貢献を重要な経営課題と位置付け、環境課題の解決に率先して取り組むことを定めたものです。2050年に向けたあるべき姿を明確にし、「環境宣言」「3つの環境行動指針」「重点取組」を示しています。

気候変動対策

1.優れた省エネルギー製品・システム・サービスや再生可能エネルギー事業の推進、普及に努め、ステークホルダーの皆様とともにグローバルに温室効果ガスの削減に貢献します。

2.脱炭素に向けた国際的な流れを尊重し、設計・開発から原材料の調達、製造、販売、流通、使用、廃棄に至るまで、バリューチェーン全体で温室効果ガス排出の削減を推進し、2050年の排出量実質ゼロを目指します。自社からの排出に関しては「2030年度に2013年度比50%にする」という中間目標を2022年5月に発表しましたが、世界の平均気温の上昇を1.5℃に抑えることを目指す世界の潮流により積極的に加わるべく、2023年5月に中間目標を「2030年度までに工場・オフィスからの温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す」へ変更しました。

3.地球環境の変化を監視し、自然災害のリスク最小化に貢献するソリューションを提供します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和5（2023）年度
二酸化炭素	18,296	9,438

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和5（2023）年度
二酸化炭素	1	1

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和5（2023）年度
メタン	10	1
一酸化二窒素	17	3
その他 温室効果 ガス （HFC PFC SF ₆ NF ₃ ）	17	17

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)	削減目標		目標年度 (令和12 (2030) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	18,296	50.0	9,146	9,150
非エネルギー起源CO ₂	1	0.0	0	1
メタン	10	0.0	0	10
一酸化二窒素	17	0.0	0	17
その他 温室効果ガス	17	11.8	2	15
温室効果ガス 実排出量総計	18,341	49.9	9,148	9,193
温室効果ガス みなし排出量	18,324	-	9,193	0
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ ：2021年度実績から毎年1%削減 みなし排出量：2030年度 自社排出量 0t-CO ₂ 電気は中国電力㈱の実排出係数を使用 その他：現状維持			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

い)、削減率（%）

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量（kg等）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 () 年度		削減目標 削減率 (d)	目標年度 () 年度		削減目標 削減率 (d)	削減目標 削減率 (d)
	排出量 (a)	原単位 (b)		排出量 (e)	原単位 (f)		
エネルギー起源CO ₂			0.0				
非エネルギー起源CO ₂			0.0				
メタン			0.0				
一酸化二窒素			0.0				
その他 温室効果ガス			0.0				
総排出量			0.0				
(原油換算k1) エネルギー 消費原単位	-	-	0.0	-	-		
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気の使用量を毎年1%削減	高効率機器の導入（LED、変圧器、空調他） 製造職場による改善活動 フリークーリングの導入
2		購入電力を2%削減	太陽光発電設備の導入
3	燃料使用量の削減	都市ガスの使用量を30%削減	蒸気使用設備の電化 蒸気ボイラ更新時の配管長短縮
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1	再生可能エネルギーの導入（中国電力㈱再エネ特約）	2023年度 特高契約の10% 順次拡大し、2030年度に100%とする。
2		
3		

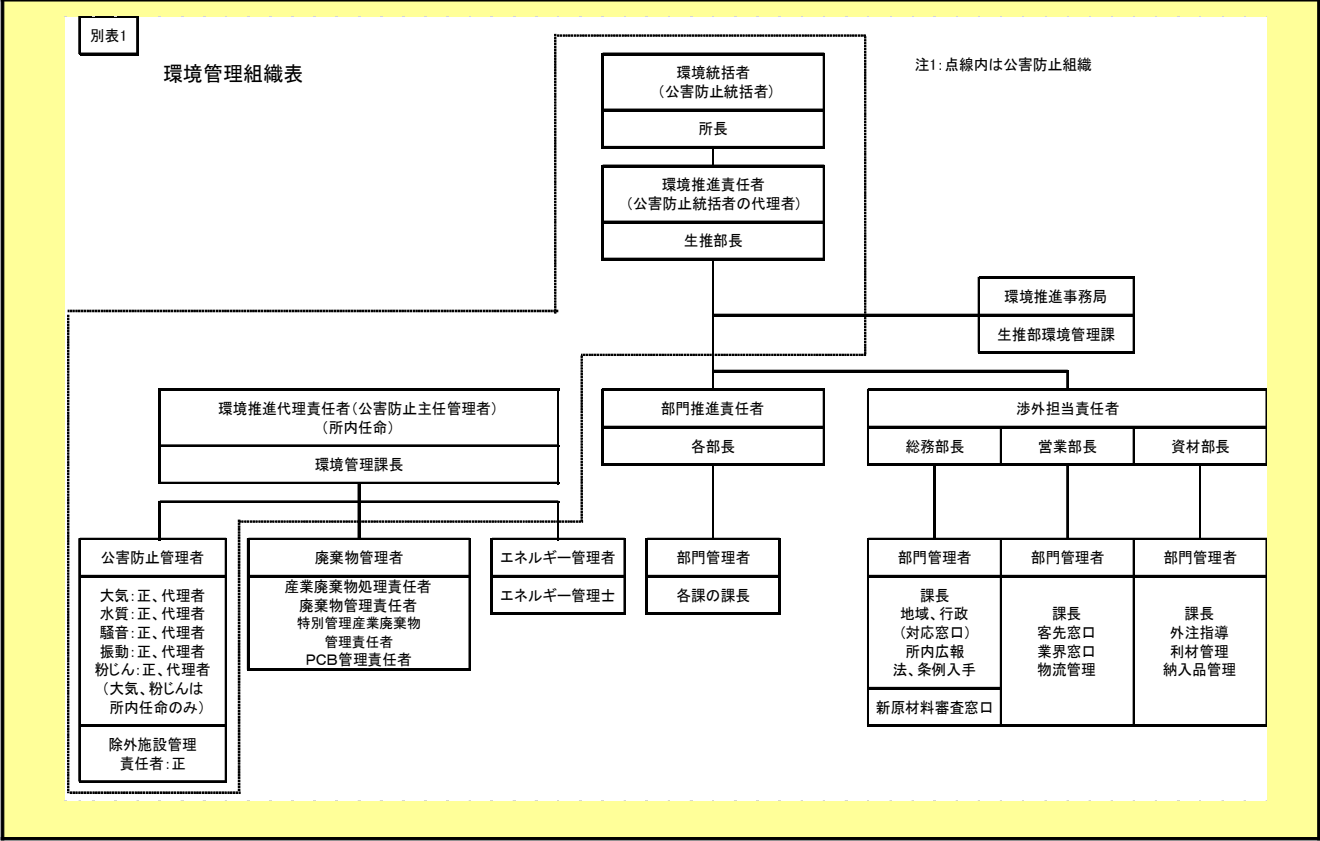
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	里山保全活動	－	植樹等（1回/年）
2	工場周辺の清掃	－	工場周辺・河川の清掃（2～3回/年）
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境マネジメントシステムが規格の要求事項を含め、環境管理の計画に適合しており、当事業所全体および各部門で継続的かつ有効に運用されていることを確認するために、年1回および環境側面変化に応じてその都度、『内部環境監査規程』に基づき環境監査責任者が実施する。

(3) 計画書等の公表

製作所に備え付けて閲覧